

2018年度教育研究活動報告用紙(様式9(2018))

氏名	山根 正夫	職名	学位
----	-------	----	----

研 究 分 野	研究内容のキーワード
障害児保育・発達障害児(者)の援助方法・応用行動分析・保育ソーシャルワーク	障害児保育・発達障害・自閉スペクトラム障害・応用行動分析・保育ソーシャルワーク

研 究 課 題
障害児・者の援助全般について行動分析的視点から考察する。 保育におけるソーシャルワークのあり方に関する検討。

担 当 授 業 科 目
子ども家庭福祉論、障害者福祉論、障害児保育、社会的養護、社会的養護内容、相談援助演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、保育実習指導Ⅰ・Ⅲ、保育実習Ⅰ・保育実習Ⅲ、専門研究Ⅰ・Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 子ども家庭福祉論・障害者福祉論 】 社会福祉士養成のための必修科目であり、レジメを準備しパワーポイントを利用して講義した。レジメや時々のトピックスの論文などを適宜配布し、両科目の理解の深化に勤めた。レジメについては毎年空欄を作って書き込めるようにしてほしいという要望があるが、何が大事か強調されているのかについての認知力を高める事も視野に入れてレジメを作成していることを学生に説明している。
授業科目名【 障害児保育 】 演習系科目であり、副読本についてノート作成し定期的に提出させ、点検の上返却した。今年の授業の大半のコマは、課題に沿って担当学生を決め、プログラム準備、プレゼンテーション、ディスカッション、教員による解説の流れで授業を進めた。学生にとって自分の担当課題は理解が深まっているがそれ以外の講義内容の理解についてはばらつきが大きい。来年度も学生の主体的学習を深めさせたい。
授業科目名【 相談援助演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 】 授業の方法はほぼ共通であるが、Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ(Ⅴの後半部分はコミュニティワーク)については、現代の児童家庭の課題を示しそれについて学生が調べ、プレゼンテーション・討議を通して学習を深める方法をとった。学生がやや制度面にだけ焦点が向けられきらいがあり、個々の生活実態の臨牀的な側面からの学習の深化を得られなかったのではないかと危惧している。来年度はこの点を踏まえ、授業を進めていきたい。
授業科目名【 保育実習指導Ⅰ・Ⅲ、保育実習Ⅰ・Ⅲ 】 複数教員による合同授業である。保育実践への導入教科であるため、より現場感覚に沿った授業構成とした。 授業科目名【 社会的養護・社会的養護内容 】 保育士資格取得のための必修科目であるが、前者はオープン科目で、理論的・制度的な理解を求めた。後者は演習科目であり、実践上必要な内容について調べ学習や討議を重視して授業を構成した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本特殊教育学会 日本行動分析学会 日本発達障害学会 日本福祉学会 日本保育学会 福岡教育大学附属障害児治療教育センター研究部員 日本保育ソーシャルワーク学会		昭和51年4月～ 昭和61年4月～ 平成7年9月～ 平成12年11月～ 平成22年4月～ 平成28年～

2 0 1 8 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 新修 北九州市史 社会編・福祉編		2018年12月	北九州市	4章5節4項執筆
(学術論文) 特になし				
(翻訳) 特になし				
(学会発表) 特になし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
九州市児童福祉施設等第3者評価委員会委員 北九州市福祉事業団評議員 社会福祉法人福音会評議員 社会福祉法人喜久茂会理事 北九州市社会福祉審議会委員 北九州市社会福祉協議会評議員		平成28年4月～平成30年3月 平成29年4月～平成30年3月 平成29年11月～ 平成29年11月～ 平成29年4月～平成31年3月 平成29年4月～

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
学生総合支援室室長 宗教委員会委員 倫理審査委員会委員